

第2回 北九州市文化芸術推進プラン検討会 会議録

1 開催日時

令和6年8月21日（火）10時～12時

2 開催場所

市庁舎5階 特別会議室B

3 議題

- (1) 全体スケジュールや第1回検討会における主な意見と対応方針等について
- (2) 北九州市文化芸術推進プラン素案等に関する意見交換

4 出席者氏名

(1) 構成員

大島まな、久保山雅彦、調弘誓、外山典子、羽田野隆士、◎南博、室園哲子
(◎：座長)

(2) 事務局

都市ブランド創造局総務文化部長 新山克己 他4名

5 議事概要

- (1) 全体スケジュールや第1回検討会における主な意見と対応方針、子育て世帯へのアンケート結果等について事務局より説明し、質疑応答
- (2) 北九州市文化芸術推進プラン素案等に関する意見交換

6 会議経過

(1) 開会

(2) 構成員紹介

(3) 事務局説明

事務局（資料1から資料5を用いて説明）

【資料1】全体スケジュールについて

【資料2】第1回検討会における主な意見と対応方針について

【資料3】北九州市文化芸術推進プラン修正骨子案の説明

【資料4】北九州市文化芸術推進プラン素案の説明

【資料5】子育て世帯、Z世代のアンケート・ヒアリングの結果

(4) 事務局説明に対する質問・意見交換

南座長

今ご説明があった一連の事項について、この場でさらに深掘りをして意見交換が必要とお考えの事項や、その他追加でご質問、ご意見等があればいただきたい。

久保山構成員

基本理念が文化成熟都市から文化共創都市に修正されたが、文化都市のイメージがある金沢でも共創ある文化都市づくりを進めていて、いい言葉に修正いただいた。

観光消費については、確かに基本構想の中で掲げてはいるものの、何となく文化のプランの成果としては、文化部門というよりも他に左右される指標なので、これでいいのかと思った。プランの検証をするときに、ここの部分だけは成果指標がないようなイメージがあったが、他のプランにも載せるということであれば、承知した。

焼肉を北九州が売り出していることは知らなかった。今まではぬか炊きや、カニ・カキロード、関門海峡たこなど、いろいろあった。それで、いきなり寿司と焼肉と言って本当にいいのかというのが少し気になる。そういう意味では、従来の食文化に加えて、例えば新たに焼肉という書き方をするのであればいいと思うが、今まで関門たこを売り出すからと専門店を出した人たちからすると、何なんだと思うのではないか。

それから、アンケートの中で、学校での取組がないと、なかなか文化に触れる機会がないとあった。経済的な理由もあるだろうし、そういう意味で学校向けに、いろんな団体や行政がメニューをそろえてあげるというのは、今後やっていかないといけない。

全体的には、いろいろご意見を出したものについては修正していただいた。1つ自分でも消化できてないのは、文化芸術基本法に基づく地方の文化計画という位置付けがあるのと、障害者の文化に対する計画にも位置付けられているので、そういう意味では、障害者という言葉にこだわったのはそういうことだったのと、あとは、国の文化芸術基本法の中にもいろいろカテゴリーがあって、それをどうやりますといろいろ書いているが、文化施設についても書いてある。だからこそ、文化施設についても文化の振興を図るための1つの拠点として書かなければならないのではないかと思ったので、文化施設についての記述がないのはどうかと私は言ったが、施設含めてということでもとめてあるので、そこは記述次第だと感じた。

最後のページに北九州市歌が載っているが、それよりも、市民憲章の「文化のかおるまちにします」にする方が、指標の中に「文化のかおる」という言葉がある以上は、適切ではないか。

事務局

食に関して、今まで頑張ってきた方がいらっしゃることを踏まえて、表現をどうするかというところは考えさせていただく。

障害者の関係の位置付けといったところも、保健福祉局と調整していきたい。文化施設について、前回のプランでは文化施設の充実活用ということで、項目をあげていたが、今回はソフト面や取組重視で挙げさせていただいている。

観光消費額の検証が難しいのではないかとこの点は我々も課題として認識しており、そ

こは事業の方で、例えば文化施設の入場者数など、個別の指標で、文化は文化できちんと寄与しているのかというのを検証して、事業ベースで検証しなければならないというのはかなり強く認識している。

市歌に関しては、掲載したうえで、市民憲章についても掲載する方向としたい。

久保山構成員

文化施設については、25ページに北九州市の文化施設の概要が記載されるということなので、17ページのところに参照先のページを書いていただければと思う。

調構成員

5カ年計画の中で、稼げるまちというのがポイントというお話もあったが、武内市政がそこを目指そうとしているということで承知した。企業誘致や、企業の力で経済的に稼ぐということもあるだろうが、こうしてインバウンドや観光を利用して、稼げるまちにという要素の中で、文化芸術とスポーツと観光という3つをそれぞれに連携するということだろうと理解した。スポーツの新プランも拝見したことがあるが、そこでもスポーツで稼ぐというパートがあったと思う。スポーツと文化芸術と、そもそもの観光資源の活用、この3つをしっかりと本当の意味で連携させてやっていくことが重要。市民の方には、文化芸術だけではなくて、スポーツも観光資源を使って、それぞれで稼ぐということを目指しているというのが、クリアに伝わると思う。

私も北九州に住むようになってまだ1年なので、外部の人間から見て感じるのは、本当に北九州、特に小倉はいろんなものがそろっているとは思いますが、それがうまく外に向けてアピールできていないのと、何となく活用しきれていない、もったいない部分もある。例えば、スポーツの関係の方と話すと、新幹線で降りられる小倉駅から徒歩圏内で国際試合もできるスタジアムが、全国広しといえど北九州ぐらいで、駅を降りてあちこち行くと、興味深い文化施設もたくさんあり、食に関して言えば、福岡は全国でもグルメのまちで安くて美味しいものが食べられる。

スポーツ観戦に来た人が、翌日には文化を楽しめるような誘導やPRの仕方について、プランの運用面かもしれないが、文化、スポーツ、観光の3者が連携していけば、可能性は広がっていく。目的に合わせて事前にSNSで調べたりはするだろうが、実際に来てから気づけるようなPRをうまくしたり、この5年間は集中的に、武内市政のもとで稼げるまちを目指すために、連携して行ってほしい。

一方で、先ほど久保山さんからあったように、派手なことはいろいろやったが、市民の中に根づいていなかったり、市民を置いてきぼりにしたりするのは、行政が取り組むこととしてはちょっと片手落ちな気もする。稼げるまちを作っていく一方で、市民に根づくように文化芸術の振興に取り組んでいただきたい。

そういう意味では、青の部分や緑の部分はイメージしやすいが、黄色の部分が何となくぼんやりとしている。1回目のときにも説明があったと思うが、高齢者の方が文化芸術に触れる機会が減っている印象なので、文化芸術を市民の中に育てていくというのがもう少

しイメージしやすいような取組があるといいと思った。

事務局

スポーツを楽しんだ方が文化観光を楽しめるなど、そういったところは意識して、これからやっていきたい。それから、市の方でいろいろやったが市民に根づいていないという点で、どういった形ですり合わせていくのか、いただいたご意見を参考にさせていただく。また、黄色の部分がまだ少しぼんやりした印象ということで、もう少し何か入れ込めるのかどうかは、引き続き検討したい。

都市ブランド創造局はできてまだ1年目で、今、円滑に文化・スポーツ・観光が連携できているかということ、今はまだ挑戦しているところという段階。直近だと11月や12月にイルミネーションや映画祭でのいろんなイベントが予定されていて、そこで我々も何かパッケージとしてできないかということも検討しているところではあるので、そういったものが構成員の皆様にも見えてくると、もう少しリアルに感じていただけると考えている。

外山構成員

黄色の部分は、これはこれでいいと思うが、学校へのアウトリーチと書いてあるが、ミュージアム・ツアーと平和のまちミュージアムに行くのもなくなった。だが、こういうアンケートを見ると、親御さんは家の方で連れていけないから、学校からそういうところに連れてってもらえないかという要望がすごく多いと思う。親御さんたちに聞くと、ミュージアム・ツアーは学校が連れて行って、すごく好評だった。学校での茶道体験や、今回4年目になるが、黒田征太郎さんを学校に呼ぶのも好評。

文化庁の事業で手を挙げて、その中から教育委員会の方でこの学校、今年、こういう有名な人を派遣しようという事業もあり、これだとお金がかからないので、いろいろ学校が手を挙げて、今度私の学校にはフラメンコの人が11月に来るが、そういう形で、学校では家でなかなか体験できないことをさせてあげようというふうに努力はしている。予算がないのはわかるが、ミュージアム・ツアーもなくさないで欲しいと思うし、平和のまちミュージアムもせっかく作ったんだったら、活用して、その人たち次の世代を担う人達になっていくので、ぜひ授業を続けていただきたいと思う。計画に書くからには、ぜひ市の方も予算をつけていただきたい。

もう1つ、角打ちを載せていただきたいという思いがある。関門海峡たこや八幡ぎょうぎ等、いろいろあると思うが、なぜ角打ちが北九州でできたのかということ、3交代で働いている方がいるから角打ちの文化ができた、そしてそれが八幡製鉄所につながっている。

事務局

子どもが様々な体験をするのは大事なことで、そこに力を入れていきたいというのは、こちら変わらない思いとしてある。おっしゃるように予算編成に関わることであるので、毎年必要な事業ということで考えていきたい。角打ちについてもご意見いただいたが、

今回は統一的な目線でということで、掲載しない方向とさせていただきたい。

羽田野構成員

まず基本理念でミッション、それからコンセプトがはっきり打ち出されている。絞り込むというよりも、文化や芸術が、最大限にいろいろなことがやれるようなミッションとコンセプトになっていると思う。なので、これでいくということになれば、先ほどから議論になっている各論の中に入る。基本計画も5年間でやるわけなので、1年目2年目3年目というのがあって、評価があって、各論のところは微修正できる。この場で各論まで議論し出すと、非常に細かくなる。文化芸術は非常に多岐にわたっていて、このミッションは色んなものが入られるようなものになっている。まずはミッションとコンセプトで、各論については、いろんな意見が入られるというふうにしておいたほうがいい。5年間でやるわけなので、微修正があって、評価がある。評価まで入れておかないと、1年目でどこまでやって、その評価に対して2年目に入るわけなので、前年度を受けて微修正があるというふうにしておくべき。絞り込んでやるのではなくて、かなり広範囲に使えるようにして、それはそれでひとつのやり方なので、これでいいと思う。

事務局

おっしゃったように、今回は具体的な細かい事業に落とし込んだ計画ではなくて、大きな方向性を示すようなプランをといるところが、今回のひとつの特徴ではあるので、細かい取組については、毎年振り返りをしながら、その中で変更するところは変更させながら取り組んでいけたらと思う。毎年微修正をといるところは我々もまさにそうだと思っていて、そのために大まかな方向性を定めるものに計画はして、毎年時代の変化の移り変わりが激しいので、そういったところも踏まえながら、現状や実績も勘案しつつ、修正してこの基本理念の目的を達成するように取り組んでいきたい。具体的なミュージアム・ツアーという記載はできていないが、ないがしろにするというわけではなくて、非常に重く受けとめている。

羽田野構成員

コンセプトの下の方向性のところをかなり包含できるようにしておかないと、あれもこれも入れてほしいとなるので、そこは言葉の整理をしたほうがいい感じがする。

大島構成員

2番目の柱がぼんやりしているというところで、稼げるところと一番乖離しているところだと思う。ただ、教育の分野では、経済的な格差が子供たちの体験格差に繋がって、将来に負の連鎖を及ぼしていくというのがもう出ているように、経済的な格差が文化体験格差にも繋がって、目に見えないところかもしれないが大事なところで、市民がいろんなところで誰もが享受できるというのを保障するのは、とても大事なことだと感じている。

今回、放課後児童クラブの利用者へのアンケート結果を見せていただいて、1,000

枚配って129の回答で、その中でのことなので、学校以外での文化芸術活動の有無で半分が「ある」で、半分は「ない」でも、回答していない部分を考えると、実数はもう少し「ない」が多いと思う。共働き家庭は全体としては7割で、放課後児童クラブの利用者は少子化なのに増えているというのを考えると、この辺の数値は大事。

そういった意味では、義務教育段階での学校はすべての子どもたちをフォローするので、アウトリーチも大事だと思うが、一方で放課後児童クラブや福祉の領域、あるいは学校の先生の働き方改革で、スポーツが先行している学校の部活の地域移行がやがては文化部活動とも言われている時代に、もう少し地域の受け皿を真剣に考えていいのではないかと思う。学校のアウトリーチや地域と連携した文化芸術活動体験等と入っているので、これでいいが、地域の拠点である130の小中学校区にある市民センターを地域の拠点活動施設として、そこで行われている、地域に根づいている伝統文化に触れる機会や、そこにつらなっている人間関係も含めてのことではないかと思う。踊りや音楽を吸収するだけではなくて、その伝統文化にひそんでいる地域の歴史を人間関係も含めてというところもある。市民センターでは文化祭も毎年行われており、いろんな人たちが文化活動を行っているので、地域の拠点施設としても、文化施設としても、市民センターが見えていない感じもしたので、市の資源をフルに活用されたいと思う。

事務局

子どもの体験活動を地域でどう受けとめるかというご意見で、市民センターでお祭りをしていたり、区ならではの文化祭なども開催したりしているので、そういった各区ならではの、地域ならではのところをもう少し表現として入れられるかどうかはもう一度検討したい。

羽田野構成員

皆さんおっしゃるのはもう全部その通りだと思う。それで、財政的な問題があるので、現実を見ると、やはりかなり厳しい予算を組まざるをえなくなっている。5年間の計画の中で、一遍に全部できるわけではない。計画の中に盛り込むというのは、お金の問題等も含めて考えなければならないと思う。それと、今のような意見が出ると一層、文化にふさわしいかどうかは別にしても、稼げるまちというのは必要になってくる。稼げるまちということで、企業にもう少し稼いでもらって、税金を払ってもらって、それを文化や福祉などにまわしていこうとしているのだろうと私は考えている。そうなると、かなり多岐にわたってくると思う。局を跨いでこのプランがかなり広がっていくので、ある程度その辺も含んだ上で絞り込み、重点を採算上作るということは大事だと思う。

事務局

確かにいろんな幅広い取組がある中で、どこからできるのか、優先順位といったところは事業を進めるにあたっては、考えていく視点なので、そういったところは踏まえて、意識して取り組めたらと思う。

室園構成員

私もまた予算のかかる問題だと思うが、青い部分にまちなかアートとある。北九州の中心は小倉北区の駅の周辺だと思うが、まちなかには発表や体験する場所が少ない。通りがかりにちょっと見てみよう、入ってみたいという場所づくりが必要ではないかと思う。リバーウォークに市民ギャラリーはあるが、知っている人しか行かない。通っても少し奥まわっていてわかりにくく、広さも十分ではない。文学サロンもなくなったそうで、美術館分館は休館になったので、子どもと一緒に発表できるような広さがあって、こういう場所で作品展がしたいという、ときめくような場所があればと思う。

それから、素案の19ページに「次世代を担う子ども・若者の文化芸術体験の充実」とあるが、毎年夏休みを行っている子ども文化ふれあいフェスタに生け花の関係で20年近く行っている。体験は人気があって、体験する機会は充実していると思うが、そのあとのフォローがない。1回来たらそれっきりで、あとに続かない。そのあとのフォローのことも、記入したらいいのではないか。

事務局

発表できるような場づくりをというご意見で、いろんなニーズがある中で、これをやるというところは直接はなかなか表現しにくい、まちなかでそういったニーズが高いところをしっかりと踏まえて、これから考えていきたい。

子ども文化ふれあいフェスタがその場限りになっているというご意見で、きっかけづくりということで事業を実施しているが、どうすればフォローに繋がるのかといったところは、また活動している方や実際に参加された方のご意見を踏まえて、検討したい。

そういった意味では、KPIで文化芸術活動した市民の割合というのは、目標数値に掲げている。ここがきちんと上がっているかというところが、実際の次のアクションに繋がったかというところを測る指標になると捉えているので、意見をいただきながら、何ができるのかというのは毎年の予算でまた考えていきたい。

久保山構成員

推進体制が気になっていて、行政がやることと、文化団体などいろんな団体がやること、企業がやることは違う。例えば、ホテルで美術品を飾ってくださいとか、ロビーで演奏会をするような企画をやってくださいという話ができる場というのがあるのかなと思った。5年間でこの計画を作ったから、みんなそれに即してやってねと言って、ほったらかしていいのか。計画には普通は、例えば市、団体、企業、市民それぞれの役割がいろいろ書いてあって、それに即して皆さんこういうことやってくださいと具体的に出てくる。23ページに推進体制が書いてあるが、その場というのはどこなのかと気になっている。5年間でフレキシブルに動かなければいけないので、推進体制のための委員会といった組織を作るということではなくて、意見交換の場は必要ではないかと思う。計画としては構わないが、その後どのようにフォローしていくのだろうというのが気になる。

事務局

我々も意見を聞きながら、場を作るかどうかはまた考えていくとして、我々がそれぞれのプレイヤーをまとめていくというか、繋いでいく役割ができないかと思う。

南座長

言葉の問題で、概念をより広げた方がいいのではないかと思う部分がある。漫画や映画に関する一連の言葉がいろんな箇所に出てくるが、漫画についてはアニメなどを含んだポップカルチャーという言葉が北九州市は近年使ってきているように思う。そうした意味では、「漫画を含むポップカルチャーや映画など」という言葉に変えて、概念を広げてはどうか。漫画というどうしても2次元の動きのないものというふうに捉えられるのが一般的だと思うが、今はポップカルチャーもそれを超えて、非常に飛躍的にいろんな形で展開されており、むしろそちらの方に、いろんな発展の芽があるという部分もあるので、その辺りの言葉の整理をしていただきたい。13ページのこれまでの取組の戦略4のところでも、「漫画やアニメをはじめとしてメディア芸術を活用した情報発信」とあるが、メディア芸術に映画も含まれたりするので、「ポップカルチャーやメディア芸術を活用した情報発信」とするなど、少し文言の整理が必要だと思う。

あと、素案と骨子の関係性で、素案の中で直接的に出てこない言葉が骨子の3つの柱に基づく各施策の方向性というところに出てくるのは気になる。素案の方に書かれてある文章を分解して意味を読み取れば、骨子に書かれている文言には繋がるが、例えば先ほど議論となった黄色い部分の学校へのアウトリーチという言葉に関しては、直接的には19ページに出てこない。もちろん、体験の機会の充実を図るとか、多彩な文化芸術である体験機会の充実を図るといった辺りに、この意味合いが含まれるというのは理解できるが、わかりやすさということを考えると、素案の方で使われた言葉を軸として、資料3の骨子案というのできている方がわかりやすい。その辺りも、先ほど羽田野構成員からのご指摘があったように、全体的な言葉を見直すという中でご検討いただきたい。

事務局

言葉の整理というご意見で、まず骨子を作った後で素案の作成という流れだったので、整合性がついてないところがあった。言葉の使い方については全体的にもう一度確認をさせていただく。

南座長

それでは他にご意見がないようなので、第2回の検討会としては以上としたい。本日は非常に多岐にわたって、骨子や素案、全体的な今後の取組ということで、いろいろご意見をいただいたので、事務局でそれをしっかり受けとめてまたご検討いただきたい。

今後のスケジュールは冒頭で事務局からご説明があったように、今回の検討会の議論を踏まえて、プラン素案の修正をしていただいて、常任委員会での説明の後に10月からパ

ブリックコメントとなっている。そのあとに、第3回検討会を開催し、市民の皆様のご意見を反映した最終案を確認するということになる。

事務局より事務連絡があればお願いしたい。

事務局

次回は11月の開催を予定している。近日中に日程を調整させていただくのでよろしくお願い申し上げます。

南座長

それでは、第2回北九州市文化芸術推進プラン検討会を閉会する。

7 問い合わせ先

都市ブランド創造局 総務文化部 文化企画課 文化企画係
(電話番号：093-582-2391)